

2012年10月10日

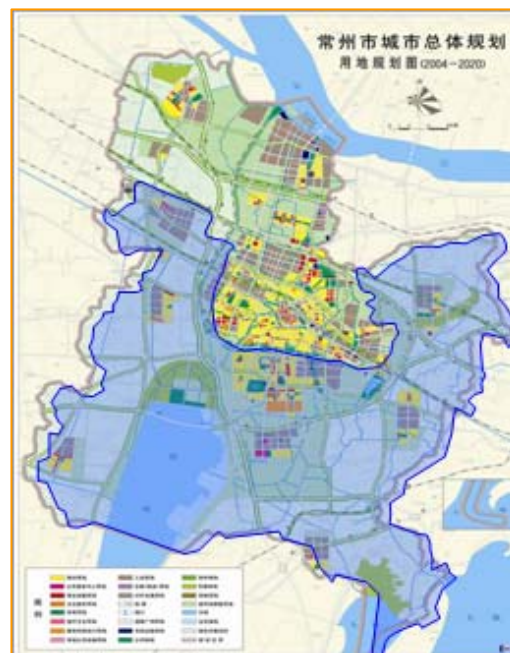
江蘇省常州市「江蘇武進經濟開發区・日本中小企業園区」について

上海産業情報センター

横江 隆弘

今回は、上海と南京の間に位置する江蘇省常州市の江蘇武進經濟開發区・日本中小企業園区を紹介します。昨今は、企業の進出が続き、企業にとって優良な進出先を見つけ出すのに苦労されているのを耳にします。適当な投資先はすでに完売されていたり、最低投資金額が高かったりとなかなか企業の思惑どおりに進まず、人材確保の観点からも中国内陸地域に候補地を求め、中西部に進まれる企業も少なくないようです。今回ご紹介する江蘇武進經濟開發区は、お気づきになっていない方にとっては、大きなチャンスを得られる可能性を秘めているのではないかと思います。今回は、その状況を報告したいと思います。

1 江蘇省常州市及び常州市武進区の紹介



江蘇省常州市は、人口は約 460 万人で、面積は、4385 平方 KM となっています。上海市から 160KM の場所に位置しており、高速鉄道で約 50 分、車で約 2 時間かかります。常州市武進区は、常州市の南部にあたり、人口は約 157 万人（常州市の約 28%）で、面積は、1242 平方 KM（常州市の約 34%）となっています。

交通インフラにおいては、7 本の高速道路が張り巡らされているほか、鉄道関係では、上海南京間と上海北京間の 2 本の高速鉄道の駅を有しています。

また、常州空港及び常州港、京杭大運河があり、空路輸送も水路輸送もしっかりと確保されています。

そして、強調したいのがGDPです。2011年の常州市のそれは、571億ドルで、2010年から約20%の増加です。武進区のGDPは、175億ドルとなっており、1人あたりに換算すると、ほぼ12000ドルになりかなり高い水準になっています。経済発展がすでにかなり進んでおり、街に入ればすぐに実感できるのですが、街のインフラも整っており（バス専用路線を走る快速バスBRTが整備済みであり、地下鉄も計画されています。）、そして清潔で街に余裕が感じられます。この武進区が本格的に外資導入に力を入れたのは、2008年頃からというのは、そもそも外資に頼らなくても十分経済発展できる経済的な力を持っていたということが言えます。それ故に上海から近いこの地域に、中小企業が入り込む余地が残っているのです。

2 江蘇武進経済開発区・日本中小企業園区について

江蘇武進経済開発区は、2006年に設立された省級レベルの面積64平方キロの開発区です。



蘇州市のシンガポール工業園区を総合設計したデザイナーによる設計とのことです。現在の産業分布は、新材料が52%で、機械設備関係が29%で、健康関係が11%で、電子関係が8%となっています。

開発区の構成は、

- ① 新材料産業パーク
- ② 西太湖国際健康城

バイオ医薬品、医療機器の研究開発
と製造など。

豊田通商の進出もあります。

③ 西太湖国際知的パーク

ハイテク産業のインキュベーター
パークとして、研究開発・工業設計、
オリジナルアニメ・漫画の研究開発
など

④ ハイエンドデバイスパーク製造産業パーク

五軸CNC、溶接技術、工業機械設備など先進設備製造業など

⑤ 電子情報産業パーク

⑥ 現代物流パーク

⑦ 生態レジャー区

文化レジャー、観光旅行、エコ住宅、など

そして、「日本中小企業園区」を設置し、中小企業の進出に対して、特別な対応と支援が提供されています。その主な内容は、次のとおりです。

一、 受け入れ基準

- ① 製造企業の登録資本金は、1000万円以上
- ② 研究開発、貿易関係企業の登録資本金は、200万円以上
- ③ リース期限は、3年間

二、 賃借料の優遇

- ① 企業がオフィスだけを借りる場合は、3年間賃借料無料。
- ② 200～500平米までの小型レンタル工場を必要とする場合は、3年間賃借料無料。
- ③ 500～18000平米までの工場があり、ニーズに合わせて、レンタル面積を調節することが可能です。賃借料は、1年目は無料、2年目は半額です。
- ④ 工場を代行して建設したり、リース、購入、またはリース後に購入など希望に合わせて、柔軟に対応することが可能です。

三、 税金の優遇

- ① 企業所得税 地方留保分（30%）が三免三半減。
- ② 外国人個人所得税 地方留保分（30%）が二免三半減。
- ③ 営業税 地方留保分（80%）が二免三半減。

その他に、会社設立申請手続きの無料代行、人材募集の協力などの支援・協力

があります。

これらのほかに、常州市及び常州武進区に進出するメリットとしては、人的資源の確保にあると思います。募集会と呼ばれる人材確保の場があり、ワーカー向けの募集会は毎週開催され、高級技術作業員・管理者向けは毎月開催されています。常州市には、現在40の大学と専門学校があり、在籍の学生数は、約17万人とのことです。そのうち毎年700名ほどの日本語人材が卒業しています。

また、大学パーク内に常州科学教育センターという職業教育の拠点があり、6つの高等学院からなり、在校生が約8万人で、毎年卒業生は2万人ほどでうち日本語人材は、200名ほどに上っているとのことです。ここでは、IT、アパレル、アニメ、社会インフラなどの分野で活躍できる人材を育成しているほか、企業が求める人材をオーダーメイド方式で育成することも可能になっているとのことで、教育環境も非常に高いレベルになっていると思います。

すでに進出先を労働賃金の安さだけで決定される企業はないと思いますが、地域の発展性、物流、文化的なレベルの高さなど多角的に考慮されて、判断していく段階に入っていると言ってもいいかもしれません。そのような意味でも機会があれば、一度確かめていただくのもよいかと思います。

上海産業情報センターでは今後もこれらの状況に注視していきたいと考えております。